出前講座報告

蒔田コミュニティハウス(12/18)

横浜市南区の蒔田コミュニティハウス自主事業で出前講座の依頼があり、地球の木の出前講座チームの２人(乳井、田中)がファシリテーターをつとめ、身近なバナナを通してSDGsを考えるワークショップを行いました。参加者は、計10名。内訳は大人８名、小学４年生２名(プラス幼児１名)でした。

今回の出前講座の内容は、スーパーで売っている多国籍企業のバナナと村人の自立を支える民衆交易のバナナを比較することで、私たちの「買う」「食べる」という行動が世界にどのような影響を及ぼしているかを考えるワークショップ。

バナナやフィリピンについてのクイズや、フィリピンのバナナプランテーションと有機バナナを作っている村を舞台にしたミニお芝居でも、小学４年生の２名をはじめとても積極的に参加し、気持ちを込めてそれぞれの役割を熱演してくれました。

参加者の感想として、「今日知ったことをお母さんに教えて、よく考えて買い物するように言います」、「昔、バナナは高くて遠足の時しか食べられなかったが、気がついたら安くなっていた。その陰に生産者への搾取があったのね」、「バナナの話は奥が深い。農園で働いている人の様子が目に浮かぶようだ」、「クイズに答える形式がとてもよかった。グループで気楽に話し合えたのが良かった」、「セリフを言う事で、ただ話を聞くというのでなく、参加しているという意識があり、今日は本当に楽しかった」などがありました。

ミニお芝居を熱演する参加者たち

ファシリテーターの２人も参加者と一緒に楽しく学ぶことができたワークショップとなりました。

地球の木の出前講座は、ホームページなどで受け付けています。様々な社会教育団体や学校などでも行っていますので、実施をご検討されている場合は、どうぞお気軽にお問い合わせください。出前講座の会場でお会いできることを楽しみにしています。

地球の木出前講座の申し込みはこちらまで
http://e-tree.jp/demae.html

(出前講座チーム　田中 浩平)